

教 科	科 目	単位数	年 次	学 科	区分	使用教科書
工 業	素描	2	3・4	デザイン セラミック	選択	鉛筆デッサン入門 遊友出版

1. 学習の到達目標

- ・表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けるようにする。
- ・対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力を育成する。
- ・造形表現を追求する態度を養う。

2. 学習の評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価の規準	道具の正しい使い方を理解し、表現にあわせて適度に応用しながら使用することができる。 ・課題の条件を正確に理解して制作し、合評会において学習した知識を活かすことができる。	課題の提示から提出まで制作過程を計画的な判断のもとに取り組むことができる。	課題の趣旨に関心を持ち、早く丁寧な作業ができるように意欲的に取り組むことができる。
評価の方法	作品	進行状況 作品	授業態度 作品

3. 教科からのメッセージ

作品制作においては絵画だけにとどまらず、写真や立体造形などのあらゆる造形表現の基礎として『もの』を見る確かな目、観察力が必要です。今まで漠然と見ていた『もの』が素描をすることによって形を再認識でき、新しい発見につながり、観察力がついてきます。また、描くことによって表示力や表現力が高まってきます。

角柱（立方体）や円柱といった立体の基礎となる形が主となるモチーフですが、基礎をしっかり押さえておかないと今後、不定形な物を描くことができませんので、立体物の見方や描き方を知識としても捉えられるようにしてください。そうすればどんな『もの』でもかけるようになります。

4. 年間指導計画

4 月	課題 1、2 基礎素描【鉛筆デッサン】 (幾何形体人工物) ※鉛筆の種類と用法、物の見え方、とらえ方、表現の種類と技法
5 月	(合評会)
6 月	課題 3、4 素描 (人工物 モチーフ) ※立体感を表現する方法
7 月	(合評会)
8 月	
9 月	
10 月	課題 5、6、7 素描 (身近な製品 モチーフ) ※立体感・質感を表現する方法
11 月	(合評会)
12 月	課題 8 組みモチーフ構成 (3～4 モチーフ)
1 月	※モチーフの組み方、空間表現、構図とバランス
2 月	(合評会)